

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～江戸時代、識字率世界NO1の国とは？・・・

最も統治しやすい国民とは？・・・・・・・・・・～

1800年代後半（江戸時代後期）の日本人の識字率は、**世界一**だって知っていますか？
地域差が大きく、また正確な統計は取れていないのでブレはありますが、識字率はだいたい国民の50～60%、江戸に限って言えばおそらく**70%を超えていた**のではとされています。

え！ 案外低いじゃんって思いました？ でも、同じ頃のロンドンは・・・**20%**ほどだと言われていますよ。では・・・もう一つの質問の答えをどうぞ・・・

最も統治しやすい国民とは・・・それは・・・**文字が読めない人たち**です。

もっと言うと・・・ズバリ・・・**「何も考えていない人たち」「何も考えられない人たち」**です。

文字が読めないんですから、本も読めません。知識を増やしたり、情報を得ることもできません。

だから、政権を批判することがありません。

だから歴史上の独裁者、また、貴族などの特権階級者は、自分たちを守るために、庶民が教育を受けるののできるだけ排除してきたのです。これは**「愚民政策」**とよばれ、世界の国々で行われてきたことです。

中世では、どこの国も、庶民は、ほとんど字が読めないのは普通のことでした。

1400代に日本にきた朝鮮通信使の報告書には「日本人は男女身分に関わらず全員が読み書きをする」と記録されています。

日本では、庶民が自分たちで学校や塾（寺子屋）運営していたからです。

その代表的な教育者が、かの有名な吉田松陰です。

幕末、長州藩（現山口県）の萩で10畳と8畳の二間の塾から・・・

内閣総理大臣2名！、国務大臣7名！、大学の創立者2名！を輩出しているのです。

そんなハイレベルな松陰の松下村塾の月謝は？・・・

現代のお金で計算すると・・・**0円**です。

このように、自分ができることをボランティアで、もしくはボランティアに近い形で提供する教師が当時の日本にはたくさんいたのです。

なぜか？

自分ができることを分かち合うこと、それこそが至福の趣味だってわけです。



「ちょうだい、ちょうだい。」、「あれして、これして。」と人から何かをもらったり、してもらったりする喜びは、まだまだ**初心者**の喜びです。

「どうぞ、どうぞ。」と与える喜び、これが、**ザ・プロフェッショナル**の喜びです。

奪うと不幸になり、与えると幸せになる。これが幸福というものです。

「自」らを「分」かち合うこと。それがほんとうの「自分」になる道。幸せのプロになる道です。

ひすい ことろう 「ニッポンのココロの教科書」（大和書房）より

あのウォルト・ディズニーもこう言ってます！・・・**「与えることは最高の喜びなのだ！」**と。

では・・・あなたは・・・将来・・・多くの人に、社会に、世界に、何を与えて幸せになりますか？